

# 2018年度春の三者総会 議案書

平成31年3月16日12時00分開始  
於・九州大学

本議案書は、平成31年3月16日(土)に日本物理学会(九州大学)にて開催される春の三者総会に提出されたものである。提出された議案は以下の4つである。

## 目次

1	役職項選定:2020年度三者役職校の選定(静岡大学,筑波大学)	2
2	予算案:2019年度修正予算案(京都大学)	2
3	予算案:2019年度修正予算案(三者準備校・九州大学)	3
4	議題:秋の総会、及び春の総会廃止の提案(大阪市立大学)	4

## 1 役職項選定:2020年度三者役職校の選定(静岡大学,筑波大学)

未定だった2020年度三者事務局校について、以下のように選定された。

- 2020年度三者センター校：東北大学
- 2020年度三者準備校：筑波大学・新潟大学
- 2020年度三者事務局校：早稲田大学

なお、2021年度三者センター校及び準備校については選定中である。

## 2 予算案:2019年度修正予算案(京都大学)

2018年度秋の三者総会で可決された予算案に対して、変更の必要が生じたので修正予算案として提出する。経緯は以下の通りである。

当初はホテルのコンベンションホールを分割して素粒子論パートと原子核パートを開催する予定であった。しかし三者準備校によるホテルの下見の結果、会場の広さが不十分であることがわかった。そこでコンベンションホールとは別に原子核パート開催用に会議室を追加で借りることにした。またホテルの仮契約のために別途3万円が必要であることも予算案可決後に判明した。

以上の追加経費に対して、コピー代と前日入り宿泊費を削減することで支出増加を抑えて、三者準備校予算を次のように修正する。なお、他の役職校の予算の変更はない。

- 三者準備校(金沢大学、九州大学)

項目	修正前予算案	修正後予算案	差額
施設使用料	¥326,500	¥371,250	+44,750
予約費	¥0	¥30,000	+30,000
コピー代	¥20,000	¥2,000	-18,000
消耗品代	¥10,000	¥10,000	0
郵送費	¥20,000	¥20,000	0
会場下見代	¥71,760	¥72,560	+800
レンタカー代	¥36,434	¥36,434	
ポスター制作費	¥20,000	¥20,000	0
前日入り宿泊費	¥20,000	¥0	-20,000
合計	¥524,694	¥562,244	+37,550

施設使用料：追加で借りる会議室の利用料

予約費：ホテル仮予約のために必要な経費

コピー代：過大に予算要求していたため例年の決算も加味して減額

会場下見代：宿泊時の消費税分増加

前日入り宿泊費：九州大学から準備のため数人前日入りする予定であるが、前日宿泊分も大学から補助がもらえるめどが立ったため削除

### 3 予算案:2019年度修正予算案（三者準備校・九州大学）

三者準備校としての予算修正がある。

変更点としては、・コピー代・施設使用料・レンタカー代・前日入り宿泊費・予約金（追加）である。

名目	金額	修正版	前年度	内訳	備考
ポスター制作費	20,000	20,000	99,876		(前年度) 手違いで、ポスター費を基研の補助から得られなかったため、金額が多め
コピー代	20,000	2,000	20,000		<-コンビニで印刷することを想定して、予備の印刷も含めて削減
文具代	10,000	10,000	10,000		
郵送費	20,000	20,000	20,000		
会場下見代	71,760	71,760	30,000		
下見代-JR				15,440	
下見代-1泊2食				5,000	+宿泊費の消費税(800円)
施設使用料	326,500	371,250	302,400		
コンベンションホール(円/h)				4,000	
体育館(円/h)				4,500	
会議室(円/h)				1,500	
レンタカー代	36,434	0	50,000		<-ホテル側から、講師の送迎バスを出して貰えるようになったため、削減
レンタル代				33,434	
ガソリン代(予定)				3,000	
前日入宿泊費	0	0	25,940		<-九大からは、研究室予算で出せることを確認した
予約金		30,000			<-こちらのミスで記載し忘れていました
合計	504,694	525,010	558,216		
差額		20,316			

#### 4 議題: 秋の総会、及び春の総会廃止の提案(大阪市立大学)

- 議案の内容が無い、あっても予算の報告のみ
- 秋の総会はメーリングリスト上で行われる会議で沈黙が賛成の意味でとらえられており、

非常に非効率的であり、脆弱性とも言える。

- 春の総会は会場の設営も含まれるので仕事量の増加
- 細かい議題が提出されており、一部は役職校だけで判断するほうが効率的
- 多すぎる会議は発展の妨げになる

これら2つ総会を廃止することで、他の役職校が現在担っている仕事のいくつかを事務局校に再分配し、役職校全体の仕事量を減らす事ができる。そのため可決の場合は、仕事の再分配についても議論を行いたい。

背景として2020年度の役職校の選定において様々な研究室に役職校としての依頼を送ったが、主に人数が少ないという理由で多くの大学に断られており、なかなか定まらなかった。役職校の仕事が減ると、人数が多いとは言えない大学でも役職校として引き受けてもらえる可能性が上がると考えられる。

たしかに、参加者の意見を汲み取り、夏の学校をよりよいものへ変えていくことは非常に重要であるが、それ以前に役職校が定まらなると夏の学校開催そのものが危ぶまれる。